



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011～2012年度
国際ロータリー会長
カルヤン・パネルジー

静岡西ロータリークラブ会報

会長 渡辺 憲治
副会長 杉山 元
幹事 加藤 博一
副幹事 金原 康之

例会日 毎週水曜日 12:30
但し第一水曜日 18:30

例会場 ホテルセンチュリー静岡
TEL.054-284-0111

事務所/静岡市葵区伝馬町9-3 芝田ビル3F
TEL054-254-5611 FAX054-221-0515
<http://www.shizuoka-west-rc.jp/>



WEEKLY BULLETIN

第1753回 2012年3月14日 (2011年～2012年) No.1736

静岡市内7クラブ合同例会

◎司 会 幹事 加藤 博一君

◎点 鐘 会長 渡辺 憲治君

◎ロータリーソング

「君が代」、「奉仕の理想」

ソングリーダー 望月 行雄君



◎本日のクラブ参加者報告

静岡 RC : 57名 静岡東 RC : 41名 静岡南 RC : 20名
静岡日本平 RC : 29名 静岡中央 RC : 29名
静岡北 RC : 20名 静岡西 RC : 33名

◎参加クラブ会長紹介

静岡 RC : 杉山孝俊会長

静岡東 RC : 佐野哲一会長

静岡南 RC : 兼高裕会長

静岡日本平 RC : 片山健会長

静岡中央 RC : 柳瀬英雄会長

静岡北 RC : 杉山義郎会長

静岡西 RC : 渡辺憲治会長



◎会長挨拶 会長 渡辺 憲治君

「がんの知識」

皆さんこんにちは。

本日はご多忙の中7クラブ合同例会にご出席くださいまして誠に有難うございます。私は今年度静岡西ロータリークラブの会長をおおせつかっている渡辺憲治です。近くの南町で内科、呼吸器科を専門に開業しています。本日は宜しく申し上げます。

昨年合同例会は忘れもしない、2011年3月11日に静岡日本平ロータリークラブがホストクラブで開催されました。例会はちょうど2時半ころ終了してクリニックに戻り診療中に、あの周期の長いなかなか止まない横揺れを経験しました。めまいと勘違いして脳梗塞になったと自己診断したとき、患者さんが「先生、ゆれてる!!」とさげびました。未曾有の大地震でした。あれから一年、復興は遅々として進まず、映像からは瓦礫の山が無残に写し出されています。2620地区としても支援の気持ちは切らず、最善と思われる手を打ってきました。当初予定されていた奨学金制度は実行不能と判断され、地区の寄付金を再分配して被災地のロータリークラブに寄付いたしました。本年度 RI会長のカルヤン・パネルジー氏の「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」というテーマがくしくも我々ロータリアンを深く内省させる結果になりました。

本日はゲスト卓話者に浜松オンコロジーセンター院長、腫瘍内科医の渡辺亨先生をお迎えいたしました。「日本人の二人に一人は一生のうち一度はガンになる」と云われています。ということは、6から10人おじさんが集まればガンの人が一人はいるだろうということです。それほど身近になったガンの予防と検診についてガンにならないコツを伝授していただきます。

私は「楽しい例会」はどうしたら実現するのか考え、アカペラ、マイクなしで毎回「元気ソング」を歌うことにしました。今日の「元気ソング」は「朝だ元気で」です。



○講演

講師：渡辺 亨氏

テーマ「街角がん治療」

～奥様を愛するロータリアンのためのがん知識～
プロフィール

1955年浜松生まれ。腫瘍内科医。北海道大学医学部卒、国立がんセンター中央病院

内科医長を経て、05年、郷里に浜松オンコロジーセンターを開設。センター長。

著書に「がんになったらすぐ読む本」(朝日文庫)など。

講演内容要旨

奥様を愛するロータリアンのためのがんの話

家庭を顧みず企業戦士として働きつづけ、定年後は、奥様と一緒に海外旅行を楽しみたいと言っていた矢先に大腸がんが見つかったAさん、手塩にかけて育てたひとり娘が22才で子宮頸がんと診断され子宮全摘術をうけ、楽しみにしていた孫をもつこともできず、さらに娘さんが30才前に亡くなり悲嘆の日々を送っているBさん、単身赴任中に奥さんから、乳がん得手後れと言われたと電話があり、1年ぶりに

家に帰り、奥さんの胸を見るとそこには10cmの大きさの乳がんができていたのを見て愕然としたCさん……。

高校生のころからタバコの味を覚え、毎日40本のヘビースモーカー、社長に昇進したとたん、痰に血が混じるようになり、頭痛も激しく病院を受診したところ、肺がんの脳転移、余命1年と宣告されたDさん。元気で長生きをしたいと願う私たちにとって、がんはあまりに無情にその希望を奪っていきます。

がんという病気がいかに恐ろしいか、だから、予防、検診がとても大切ですよ、ということをお国民に伝えるため、厚生労働省は「二人に一人はがんに罹患する、そして、三人に一人はがんで死亡する」という数字を出しています。しかし、そういわれてもぴんときません。しかし、俺は大丈夫だ、とか、タバコをやめるんだったら死んだほうがまだ、と豪語していた人が、最愛の奥さんに進行した乳がんが見つかり、同じころに自分も「小細胞がん」が見つかり、しかもすでに脳に転移していたことがわかり、そこで、どうにかありませんか、助けてください、と言われても私たちも困り果てます。

がんは、とても身近であって、大変恐ろしいけども、予防、検診など、やることをきちんとやっていけばどうにかになります。

奥様、お嬢様、ご家族を愛し、隣人を愛し、そして社会を背負って立つロータリアンの皆さん自身のために、今日は、がんの予防、検診、そして治療の話の少し、させていただきたいと思えます。



講師 渡辺 亨様（中央）とともに
渡辺会長（向かって右）加藤幹事（左）

キーワード：

- 予防：がんにかからないようにすること
タバコをやめる、お酒をひかえる、適度な運動を続ける
複数のセックスパートナーを持たない
子宮頸がんワクチンを接種
（タモキシフェン、ラロキシフェン）
ピロリ菌を除菌する
- 検診：がんを治る段階でみつけること
前立腺がん検診
（血液検査でPSAを測定する）
乳がん検診（マンモグラフィ）
子宮頸がん検診（細胞診）
胃がん検診（内視鏡、ABC検診）
大腸がん検診（便潜血検査、内視鏡検査）



講演の様子

（文責：平松 隆／写真：朝羽二三夫）